

履修コード/科目名称	561751 / 教育課程論		
開講年度・期	2021年 後期	開講曜日・時限	木曜日 5時限
単位数	2		
付記	◎予		
主担当教員氏名(カナ)	藤原 善美 (フジワラ ヨシミ)		
副担当教員氏名(カナ)			
授業概要	<p>本講義では、カリキュラムとは何かという根本的な問いから、教育課程に関する基礎的知識を概観する。次いで教育課程の国家基準である学習指導要領の歴史の変遷を辿ることで、学校教育の教育活動の全体的な計画である教育課程の意義を考える。そして、新学習指導要領改訂の社会的背景を紹介した上で、新学習指導要領の内容を精読することを通して、教育課程の役割・機能や、編成の方法について理解する。あわせて、望ましいカリキュラム編成のあり方を先進的事例の検討を通して考える。</p> <p>受講者の理解を深めるため、リアクションペーパーを活用して、講義内容の理解度を毎回確認し、必要に応じて次回講義時にフィードバックを行なう。また、講義内容や必要に応じて、参加型アクティビティを取り入れ、受講者の主体的な学びを促す。</p>		
到達目標(ねらい)	<p>学校の教育活動を進めるにあたっては教育課程に関する理解が欠かせない。本講義では、教育課程に関する基礎的な知識を身に付け、教育課程や学習指導要領の役割・機能を知り、社会に開かれた教育課程を編成する意義と編成方法を理解することができるようになることを目標とする。</p> <p>社会に開かれた教育課程とは、ITの発達などとも相まって今後予想される大きな社会変化に備えようとするものであるが、その編成には、幼児・児童・生徒の発達の段階や学校・地域の実態等を踏まえるのはもちろん、教科・領域・単元・学期・学年を横断するなど各学校の創意工夫が求められている。加えて、家庭や地域社会と連携しつつ、カリキュラム編成・実践・評価というプロセスを積み重ねていくこと、つまりカリキュラム・マネジメントが必要となる。そうしたカリキュラム・マネジメントの意義を理解し、カリキュラム編成における教師の主体的・創造的な役割を考えられるようになることも目指す。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨN 教育課程・カリキュラムとは</p> <p>第2回 教育課程の社会的役割と機能</p> <p>第3回 学校教育と教育課程</p> <p>第4回 学習指導要領の変遷(1) 1945年版から1968年版まで</p> <p>第5回 学習指導要領の変遷(2) 1977年版から2008年版まで</p> <p>第6回 新学習指導要領の社会的背景と改訂のポイント</p> <p>第7回 新学習指導要領の精読(1) 中学校学習指導要領 総則</p> <p>第8回 新学習指導要領の精読(2) 高等学校学習指導要領 総則</p> <p>第9回 新学習指導要領の精読(3) 各教科科目の目標・内容</p> <p>第10回 指導計画の基礎的理解(年間指導計画、単元指導計画、学習指導案)</p> <p>第11回 教育評価とその意義</p> <p>第12回 社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント</p> <p>第13回 教育課程編成における学校・教師の役割</p> <p>第14回 学校におけるカリキュラムの実際と今日的課題</p> <p>第15回 まとめ・理解度の確認テスト</p>		
履修上の留意点等			
成績評価の方法	80%	試験	
		レポート	
		小テスト	
	20%	平常点	
教科書/テキスト	<p>中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)</p>		
参考書	必要に応じて授業中に紹介します。		

▶ 図書館蔵書検索	
学生による授業アンケート結果等による授業内容・方法の改善について	リアクションペーパーに質問や要望を書いてもらい、適宜対応する。
関連リンク	
実務経験がある教員による授業科目	
アクティブラーニング型の授業科目	